



大門小だより

1月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

平成31年1月7日
横浜市立大門小学校

新しい時代に向かって

校長 佐藤 峰子

あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、和やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年も子どもたちの健やかな成長を願い、教育活動の充実に向けて、職員一同努力してまいりたいと思います。保護者・地域の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

今年5月1日、新天皇の即位とともに、元号が「平成」から新たな元号に変わります。

「昭和」から「平成」に元号が変わったとき、私は友人たちと一緒に過ごしていました。テレビを見ながら「新しい時代はどんな時代になるのだろう」とか「私たちの生活はどう変わるのだろう」「平和で、幸せな時代になってほしい」などと話し合った記憶があります。あれから30年経つということ、感慨をもって思い出します。

新しい元号の時代は、どんな時代となるのでしょうか。2020年に東京オリンピック・パラリンピックが、2025年には大阪万博が開催されます。どちらも「昭和」の時代に開催され、日本で2回目の開催となります。前回の記憶がある世代は、時代の移り変わりを感じるのではないのでしょうか。初めての経験となる世代は何を得るのでしょうか。

人工知能を有するロボットの活躍、人生100歳時代を迎えた医療の進歩、宇宙への旅など、私たちの想像を超えたことが可能となることは予想されます。同時に、様々な課題を、地球規模で考えた取組が必要となります。「学校だより12月号」で紹介させていただきましたが、本校は昨年「ESD」をスタートさせました。「ESD」は、「地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるような人を育成し、意識と行動を変革することを目指す教育」を推進することです。「持続可能な社会づくりの担い手」となるのは、目の前の子どもたちです。そのことを改めて実感したのが、昨年12月18日（火）の朝会での4年生の音楽発表でした。

発表の前に、4年生の代表の子どもたちが、合唱・合奏曲の紹介と演奏に込めた思いを発表しました。

「2028年、私たちは20歳になります。今10歳の私たちは、その半分を生きてきました。家族、友達、これまで出会ったたくさんの人たちに支えられて生活しています。感謝の気持ちを込めて演奏します」という内容でした。ジャズ風にアレンジした合奏曲「茶色の小びん」も素敵でしたが、合唱曲「10歳のありがとう」の歌声を聴きながら、日本の、地球の未来を創っていくのは、目の前にいる子どもたちなのだ、体育館に集う子どもたちを見ながら責任の重さと、子どもの成長に関われ喜びをかみしめました。

今朝、「おはようございます」「校長先生、おめでとうございます」という弾む声とともに子どもたちが登校して来ました。新しい1年が始まります。